

3、私の参加する留学プログラムについて

ひとつ悩みがあるとすれば、自分が「英語圏にいながら日本語での会話ができる」という環境にいるということでしょうか。というのも、現在私が通っている Portland State University へは同じ早稲田からの留学生が約 20 名、その他にも日本人の留学生が多いため、授業以外の時間に日本人同士で過ごしているときには日本語で会話をしています。授業はもちろん全て英語ですし、会話の輪の中に1人でも日本語話者でない友達（日本以外からの留学生など）がいれば英語が共通言語となりますが、いつでも日本語を話す相手が周りに大勢いるというのが現状です。

この環境のことでしばしばジレンマに陥ることがあります。留学イコール現地の言語のみを使用する生活、という先入観があったからなのかもしれません。当たり前のことかもしれませんが、語彙や会話表はやはりネイティブスピーカーとの交流から多く得ることができます。加えてリスニング力、そしてこちらも英語で伝えなければいけないという必要性に迫られるため、会話力も上達するでしょう。しかしこちらで暮らし始めて初めの1カ月、自分の気持ちを表現するには日本語を使用するほうがはるかに楽で、何か困ったことがあれば日本語で助けを求めることができるため、どうしてもそれに頼ってしまうことがありました。この環境をどうとらえるかは人それぞれですが、これは同じ早稲田からの留学生が少なからず気にしている問題です。

とはいえ新しい知り合いは日々増えていきますし、それが留学生か現地の学生かどうかに関わらず、せっかく出会った人たちとの関係は大切にしていきたいものです。ここでどう振る舞うのかは私次第。自分が置かれた環境に善し悪しの判断を下すのではなく、自分の気持ちの持ちようで結果は変わってくと思っています。まだ始まったばかりです。自分に甘くならないように頑張らなくちゃ。



寮の隣の部屋のBrionnaと

4、日々精進

毎日やることが尽きず、あっという間に時間が過ぎていきます。勉強は日本にいたときよりは大変に感じます。授業も毎回 reading の課題が出されるので、授業が始まってから最初の1週間は勉強リズムがうまくつかめず自信をなくすることが多々ありました。もちろん1カ月たった今も、学校の授業に限らずに課題はまだ山積みです。思っていることを 100%相手に伝えるのは日本語ですら難しいのに、それを母国語以外で表現するのに疲れることもしばしば。それでも話をするのは楽しいですし、こちらの伝えようとする気持ちには相手もしっかり応えてくれます。ですから会話が苦痛になることはありません。

今はちょうどこれから始まるこちらの中間テストにあたる mid-term を控えていて、その準備にも追われています。しかしそれが終わればハロウィンやサンクスギビングデーなどのイベントも目白押しです。加えて 11 月からは、私の住む寮の近くにあるインターナショナルスクールでの授業ボランティアを週に 2 回ほどのペースで始めます。積極的にコミュニティを広げて行動的に過ごしていこうと思います。では、無事に今学期を乗り切って、次回またみなさんに楽しいご報告ができますように。
(2009 年 10 月 26 日)

早稲田の学生の留学エッセイは、下のサイトでお読みにいただけます。
www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm



三浦さん、ポートランドに到着して留学生生活を始めました。

まだひと月あまりですが、たくさんの新しい経験をしているのが、文章と写真から良く分かります。そして、その中から、新しいことに気づき、多くのものを学んでいるのも良々わかります。

実は、ポートランドで、教育フェア終えた私の出発と三浦さんの到着が一日の差で、行き違いになってしまいました。しかし、三浦さんのことは、ポートランド補習校の皆さんに「よく頼っておきました」から、ボランティアでもさせてもらってください。次号が楽しみです！



Portlandの日本食スーパーにて友人たちと